

入江長八と大分に残る鰻絵

第6回 残していきたい文化、鰻絵

東京都立大学 プレミアム・カレッジ 本科・専攻科修了
一級建築士 立川 公彦

1. 大分の鰻絵に影響を及ぼしたもの

大分の鰻絵は、多くが建物の外壁に設置されています。アプローチや道路から見上げる鰻絵は、緻密な鰻裁きをあまり必要とはせず、ぱっと目の鮮やかさ、吉兆、面白さや印象深さを追求しており、技巧性を競っているわけではないようです。彩色も技術的な制約もあるなかで、余分なものを省くことで、銜いのない無造作な美が感じ取れます。これらは、もはや大分の鰻絵が持つ独自の文化ともいえます。この独特の表現や遊戯性はどこから来たのでしょうか。

■摩崖仏

まず、大分特有のものとして「摩崖仏」があります。「摩崖仏」とは自然にある岩に浮彫で仏を表現したもので、平安時代後期から鎌倉時代に造られました。大胆に彫られた仏は人々を優しく見守る存在となっており、昔からこの地域の人たちに親しまれ

ています。

■大津絵

次に、江戸時代から明治初期にかけて職人によって描かれ、東海道の宿場町である大津で旅人に土産物として売られた「大津絵」が影響したのではないかという文献があります。確かに山上重太郎制作の「外法の散髪」という画題は共通するところですが、120種あった大津絵も19世紀には「外法の散髪」（第3回で掲載）を含む10種に絞られており、他の画題に類似するものはなく、大津絵のみでは説明はつきません。

■仙厓義梵の禅画

大分の鰻絵の素朴さ、遊戯性や親しみやすさは、「仙厓義梵の禅画」による影響があったのではないかということを提起したいと考えています。仙厓義梵は“博多の仙厓”と呼ばれ、江戸時代末期に多くの書や洒脱・飄逸な禅画を残した臨済宗の禅僧です。経蔵に漆喰装飾を持つ、院内町にある西宝寺の扁額



↑ 図1 大分の鰻絵に影響を及ぼしたもの

は、天保年間に仙厓義梵によって揮毫されたものであり、当時の住職が仙厓義梵の愛好家であったことが十分うかがえます。さらに興味を引くことにその西宝寺は、長野鐵蔵の師匠である佐藤真六や、安心院周辺特有のコミカルな鍔絵の制作者である佐藤本太郎の菩提寺ということ、現在の住職に確認することができました。また、扁額の漆喰文字も長野鐵蔵または佐藤伴六によるものではないかとも考えられます。当時の寺の住職を介して、鐵蔵や伴六、さらに本太郎に仙厓の禅画のことが伝えられた可能性は十分あり、安心院の鍔絵に大きな影響を及ぼしたのではないのでしょうか。

■入江長八の鍔絵

大分の鍔絵は、長八の鍔絵と共通する部分は少なく、大分の左官たちの新しい発想や工夫により、風土の中に溶け込み独自の進化を遂げました。しかし、長八の鍔絵がなかったとすれば、大分に現在と同じように鍔絵が残されていたのでしょうか。そこはやはり、大分の鍔絵は、長八が存在したからこそあるのではないかと考えます。そして長八の鍔絵が、青柳鯉市を介して大分に伝わっていった可能性は高いと推察されます。しかし、長八から伝承されたのは緻密な技法ではなく、観て学べる、聞いて知る範囲のものだったのではないのでしょうか。さらにいえば、左官としての心構えが中心であったのではないかと考えます。それがあったからこそ鯉市は、生涯左官という生業を決して疎かにすることはなく、息子である弟子の長市を育て、長八に少しでも近づきたいと考えて、左官という仕事を全うしたのではないかと思うのです。そうした仕事ぶりを見た、他の地域の左官たちにも影響を与え、様々な工夫を促し、今日残っている魅力ある大分の鍔絵につながっていると確信するのです。

2. 最後に

鍔絵は図録や写真をいくらみても鑑賞にはならないと感じます。鍔絵は立体表現であり、浮き出した角が尖っている、丸みを帯びている、鑑賞する側の動きに鍔絵の浮き出しが追随、影も変化することで、さらに存在感が増します。また、人物や龍、虎の目に入れた玉眼が観る人の動きを追いかけて迫ってき

ます。そうした切迫感は写真では到底表現できません。さらに重要なのは、どのような環境に置かれているかによって大きく表情を変えることです。

一方、鍔絵の命は儚いものです。建物の外装に設置されたものは、建物と同じ運命の厳しい環境に晒され、あるものは朽ちかけています。また、あるものは運よく修復され、移転保存というかたちで新たな生命

を与えられています。残されている鍔絵の中には、芸術品として展示されているものもありますが、その多くが庶民の生活の中に溶け込んでいます。歴史のなかでは、線香花火のように短い期間に花開いた文化であるかもしれませんが、多様なものを寛容に受け入れるふところの深さが「鍔絵」にはあります。「鍔絵」という文化を新しい時代に伝承していくことで、左官の技術が創造的で価値あるものとして再認識され、左官という職業の衰退を少しでも食い止めることにつながればと願ってやみません。

1年間、拙い文章にお付き合いくださいましてありがとうございました。



↑ 図2 廃屋に残る色鮮やかな鍔絵



↑ 図3 移転保存された鍔絵